

■令和5年度行政評価調書の見方

2

■令和5年度行政評価調書(内部評価)

令和5年度
行政評価(内部評価)

【評価対象：令和4年度】

令和5年6月

三 田 市

| 第5次三田市総合計画の体系 | | | | |
|-----------------------------------|------|--------------------|---------------------|-----|
| 施策体系 | 取組番号 | 取組名(施策名) | 所管部署 (評価調書取りまとめ) | ページ |
| 「ひと」のチカラを育み、 活きるまち ～輝く人づくり～ | 1 | 人権・共生のまちづくり | 共生社会部福祉共生室 | 3 |
| | 2 | 地域で支えるまちづくり | 地域共創部市民協働室 | 3 |
| | 3 | 健康づくり | 共生社会部健康共生室 | 3 |
| | 4 | 乳幼児期の育ち | 子ども・未来部子育て応援室 | 4 |
| | 5 | 地域ぐるみの子育て | 子ども・未来部子ども未来室 | 4 |
| | 6 | 学校教育の充実 | 学校教育部 | 4 |
| | 7 | 若者が集うまち | 総合政策部未来戦略室 | 5 |
| | 8 | いつまでも学び、活躍できるまちづくり | 地域共創部市民協働室 | 5 |
| 支えあい、安全安心に暮らせるまち ～やすらぎづくり～ | 9 | 地域医療の安心 | 共生社会部健康共生室 | 5 |
| | 10 | 生活の安全安心・非常時への備え | 経営管理部行政管理室 | 6 |
| | 11 | 子ども・子育ての安心 | 子ども・未来部子ども未来室 | 6 |
| | 12 | 高齢者の安心 | 共生社会部健康共生室 | 6 |
| | 13 | 障害のある人の安心 | 共生社会部福祉共生室 | 7 |
| | 14 | 心つながる暮らしの安心 | 共生社会部福祉共生室 | 7 |
| ”三田らしい”活力と交流のあるまち ～にぎわいづくり～ | 15 | 商工業の振興 | 地域共創部産業戦略室 | 7 |
| | 16 | 農業の振興 | 地域共創部産業戦略室 | 7 |
| | 17 | 観光・交流・文化の振興 | 地域共創部産業戦略室 | 8 |
| 「まち」の基盤が整い、暮らしやすいまち ～快適づくり～ | 18 | まちの再生 | まちの再生部都市政策室 | 8 |
| | 19 | 良好な住まい | まちの再生部都市政策室 | 8 |
| | 20 | 交通ネットワーク | まちの再生部都市政策室 | 9 |
| 「さと」の恵みを守り、活かすまち ～うるおいづくり～ | 21 | 水の保全 | 上下水道部 | 9 |
| | 22 | 里山・自然の保全 | まちの再生部ゼロカーボンシティ推進室 | 9 |
| | 23 | 持続可能な環境づくり | まちの再生部ゼロカーボンシティ推進室 | 10 |
| まちづくりの進め方 | 24 | 協働・共創のまちづくり | 地域共創部市民協働室 | 10 |
| | 25 | 行政経営 | 経営管理部財務室 | 10 |

令和5年度行政評価調書の見方

1 全般的事項

この調書は、第5次三田市総合計画基本計画（以下「総合計画」といいます。）の25の施策（取り組み）ごとに、行政活動の成果や課題、今後の対応方向等をまとめたものです。

前年度（令和4年度）に市が実施した内容や結果をもとに、事後評価を行いました。

2 「取組番号」、「取組名」

総合計画の記載に基づいて、施策の番号、名称を表示しています。

3 「対象経費（人件費除く：千円）」

施策に属する予算小事業費の合計です。なお、職員人件費は除いています。

4 「施策関連部署」

施策の取りまとめをした所管部等を表示し、続いて施策に関連する部署を表示しています。

5 「予算の重点項目に対する市の取組結果（R4年度）」

施策のうち、重要とされた事項にかかる進捗状況を定量的に示し評価しています。

(1) 主な取組3項目（予算額：千円）

「重要とされた事項」を3つまで選び、各事項にかかる予算額及び対応する総合計画記載の市の取り組み項目とともに表示しています。

(2) 左記の計画数量、達成数量及び達成度評価

主な取り組みに対する実施概要とその達成度に対する評価を説明しています。

6 「成果指標の推移」

本欄は、総合計画に掲げるすべての指標の推移を確認し、各施策の成果を測る一助とするものです。

(1) 指標名～各年度数値

指標名、基準及び目標は総合計画に掲げている指標です。年度欄には各指標の実績となる数値等を表示しています。

なお、調書作成時点で把握できる数値が評価対象年度と異なる場合は、把握できる直近の数値を記載し、（ ）書きで年度を表示しています。

7 「成果を踏まえた重点課題等（R5年度～）」

本欄は、これまでの市の取り組み結果と成果指標の推移を踏まえた上で、施策推進上の課題のうち、もっとも重要と考えられる課題に焦点を当てて説明しています。

(1) 【重点課題】

施策の実施上、現時点においてももっとも重要と考えられる課題と、それに対応する総合計画記載の市の取り組み項目を表示しています。

(2) 【詳細説明】

課題を取り巻く状況、重点課題を解決するための取り組みについて説明しています。

(3) 【その他の課題】

重点課題に準じる「その他の課題」のうち、主なものを表示しています。

8 「R5予算対応済内容（千円）」

前項で選定した重点課題等のうち、令和5年度予算に計上し対応予定のものについて事業名称及び予算額（千円）を参考表示しています。

【様式1】令和5年度行政評価調査

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | R5予算対応内容(千円) | | | |
|------|------------|--------------------------|--|------|---|---|-----------------------------|----------------------------|---|-----------------------------|---|--|-------------------------------|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | | | | | |
| 1 | 取組名 | 人権・共生のまちづくり | ①人権・共生社会の推進(51,362) 【多様性を認め合い、包み支え合う共生社会の推進】 ②男女共同参画の推進(9,914) 【男女が共に輝くまちづくりの推進】 ③三田市地域日本語教育推進基本方針の策定(3,810) 【多文化共生施策の推進】 | | ①共生社会の実現を目指し、市民、事業者等と連携しながら講座や人権さんだ等により教育啓発を行った。 ・市民のつどい参加者 R3実績428人→R4実績591人 (達成度)人権共生条例の施行により共生社会の実現に向けた第一歩として施策を進めることができた。 ②女性活躍の推進を図るため、起業した個人によるピアノ教室などの習い事教室の見本市を小学生低学年及びその保護者を対象に開催した。 ・見本市 15店の出店、来場者は227名 (達成度)個人起業家のネットワーク作りにも役立った。 ③地域日本語教育の推進を図るため、三田市地域日本語教育推進基本方針の策定を行った。 ・調査件数 外国人904世帯、日本人1,000人、事業者130社 (達成度)策定にあたって、アンケート及びヒアリング等を行うことにより、現状及びニーズを広範に把握することができた。 | 1 | 人権に関する総合相談窓口利用者 | 192人 | 267人 | 250人 | 【重点課題】 人権共生条例の理念を具現化する取り組み 【多様性を認め合い、包み支え合う共生社会の推進】 【詳細説明】 ・人権共生条例を踏まえ、全ての人が尊重され、一人一人の多様性を認め合い、共に支え合い、誰ひとり取り残すことなく自分らしく生きることができる共生社会の実現に向け、教育・啓発・相談事業のほか、条例の考え方を活かした施策の実施や、市民の関心と理解を高めることが求められている。 【その他の課題】 ・男女が共に輝くまちづくりの推進 ・多様な性による多様な生き方への理解と支援 ・多文化共生施策の推進 | 人権研修・講座開催事業費(1,672) 人権さんだ発行費(2,939) 三田市人権を考える会運営補助金(4,700) | |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | | R5予算 | 40,470 | 36,125 | 2 | 三田市人権を考える会 小学校区人権研修会の参加者 | | | 1,534人 (R元) |
| | 施策関連 部署 | 共生社会部福祉共生室 経営管理部行政管理室 | | 3 | | 人権問題の解決に向けて社会全体で取り組み、自分も努力するべきだと思ふ市民の割合 | 84.6% | 90.0% | 90.0% | 4 | | | 市の管理職の女性比率 (消防本部及び市民病院を除く) |
| | | | | | | 5 | 国際交流プラザ延べ利用者数 | 3,351人 | 5,257人 | 5,000人 | | | |
| 2 | 取組名 | 地域で支えるまちづくり | ①地域コミュニティづくり推進費(1,281) 【交流と安心の拠り所となる区・自治会の支援】 ②地域活性化支援事業(39,427) 【住民主体のまちづくりに向けたまちづくり協議会等への支援強化】 ③地域福祉活動推進事業(20,254) 【実情に応じた地域での見守りや支援活動のネットワークを強化】 | | ①区・自治会連合会及び単位組織の組織運営の活性化等、より良いコミュニティの形成等推進するため支援を行った。 ・認可地縁団体数 R4実績52団体 (達成度)団体の資産管理を安定させ、法律に定められた内容での規約により透明性を確保し、多様な人材活用を含めて団体の自律性を高めた。 ②地域課題の解決に向け地域活動を担っている団体や住民と協働し地域力の向上を目指す”まちづくり協議会”の支援を行った。 ・地域計画策定の団体数 R3実績2団体 ⇒ R4実績3団体 (達成度)地域課題の可視化や住民による解決に向けた取り組みを長期的視点でまとめた地域計画を策定したまちづくり協議会が増加した。 ③ふれあい活動推進協議会や社会福祉協議会の地域福祉支援室の運営に対し、財政的支援を行った。 ・地域ふれあい活動推進事業補助対象団体 R4実績9団体 (達成度)地域における主体的な見守り活動等の促進と、地域福祉活動の担い手の支援を進めることができた。 | 1 | 地域活動へ参加している人の割合 | 29.7% | 33.2% | 45.0% | 【重点課題】 地域計画策定支援 【住民主体の地域づくりに向けたまちづくり協議会等への支援強化】 【詳細説明】 ・地域運営組織であるまちづくり協議会が、地域内の様々な団体と地域住民との協働のもと自主的、自発的に地域づくりに取り組むことが必要である。 ・自分たちの地域の現状や課題を出し合い、皆がめざす将来像を共有する地域計画の策定、推進を通じて多様な地域住民の参画を促す。 ・自分たちが創りあげた地域計画に基づき取り組むことが持続可能な地域づくりを考えていくうえで大切である。 【その他の課題】 ・男女共同参画推進プラザのアウトリーチ ・地域活動団体における負担感の軽減 | 地域計画策定支援事業・ふるさと地域交付金(38,810) | |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | | R5予算 | 406,188 | 711,902 | 2 | 区長・自治会長における女性比率 | | | 8.4% |
| | 施策関連 部署 | 地域共創部市民協働室 共生社会部福祉共生室 | | 3 | | 隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合 | 15.0% (H30) | 13.9% (R3) | 30.0% | | | | |
| 3 | 取組名 | 健康づくり | ①各種健康診査と事後指導の充実(特定健診)(62,622) 【各種健診(検診)の充実と生活習慣病の重症化予防】 ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施(654) 【健康寿命延伸に向けた取り組み】 ③心の健康づくりの普及啓発(288) 【心の健康づくりの推進】 | | ①市民自らが健康管理を実践するため、特定健診の啓発と特定保健指導を実施した。 ・特定健診の受診率 目標60.0%→R3実績31.1%(R4確定R5. 11月) (達成度)特定健診の受診率向上に向け、出張会場による健診を再開したこと等により、対前年度比で受診率の向上が見込まれる。 ②高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を後期高齢者医療広域連合から令和4年10月に受託、市内の6生活圏域での事業を開始した。 ・ハイリスクアプローチ(低栄養の保健指導) R4実績 11人 R4実績 25回 635人 (達成度)高齢者の保健事業としてのフレイル予防の取り組みをスタートすることができた。 ③ストレスと上手に付き合うために重要である「睡眠」をテーマとして、市民向けにオンライン形式による講演会を開催した。 ・R4実績 実施日:R5.2.18 テーマ:「質のよい睡眠を得るためのコツ」 参加人数:62人 (達成度)睡眠とこころの健康の関係や質のよい睡眠を得るための方法等の周知により、こころの健康づくりを推進した。 | 1 | 特定健診受診率 | 35.4% (R元) | 31.1% (R3) | 60.0% | 【重点課題】 各種健診受診率の向上と段階に応じた保健指導の実施 【各種健診(検診)の充実と生活習慣病の重症化予防】 【詳細説明】 出張健診会場の設置による健診機会の充実やWEB予約(R3.10月～)の継続等、受診しやすい環境づくりに取り組む。 健診未受診者に対して、過去の受診歴や健診結果からナッジ理論に基づくハガキによる受診勧奨を実施すると共に、受診勧奨後の受診率等の分析を行い、次年度以降の受診率向上施策に活用する。 ・健診受診後の未治療者への受診勧奨、保健指導対象者への健康教室の開催等を通じて、生活習慣病の重症化予防に取り組む。 【その他の課題】 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施(フレイル対策)の推進 | 特定健康診査事業費(50,331) 特定保健指導事業費(4,276) | |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | | R5予算 | 1,077,334 | 753,393 | 2 | 後期高齢者基本健診受診率 | | | 21.2% (R元) |
| | 施策関連 部署 | 共生社会部健康共生室 共生社会部福祉共生室 | | 3 | | 健康寿命の延伸 | 男81.19歳 女85.23歳 (H27) | 男81.84歳 女85.84歳 (R2) | 男81.5歳 女85.6歳 | 4 | | | 40歳代で健康づくりに取り組んでいる人の割合 |
| | | | | | | 5 | 70歳代で健康づくりに取り組んでいる人の割合 | 80.3% | 82.9% | 80.3% | | | |
| | | | | | | 6 | 後期高齢者のやせの割合 | 7.6% | 7.2% (R3) | 7.6% | | | |

【様式1】令和5年度行政評価調書

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | R5予算対応内容(千円) | | |
|------|------------|---------------------------------------|---|---|--|--|--------------------------------------|--|---|------------------------|--|--|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) | | ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | | | R4 | 目標R8 |
| 4 | 取組名 | 乳幼児期の育ち | R4予算 | | <p>①待機児童対策(保育士確保等対策)(9,379) 【保育サービスの充実と充足による子育て支援に対する満足度向上】 ②保育の質の向上(特別支援等の充実)(54,998) 【特別な支援が必要な子どもたちへのアプローチ】 ③幼稚園再編(27,923) 【生きる力の基礎を育む幼児期の教育・保育の推進による子どもの育ちの支援】</p> | <p>①保育士確保対策と相まって、認可保育所の新設等により、施設としての必要な保育量は確保できつつある。 ・保育施設等利用者数1,811人(R2)→1,847(R4) (達成度)これまでの取り組みの成果が現れつつあり、供給できる保育量を増やすことができた。 ②保護者や園のマネジメントの観点から子どもの育ちをサポートする体制を強化した ・指導員1名増員。 (達成度)課題サポートの充実とともに新たな支援のあり方を検討できた。 ③再編計画の実施に必要な施設整備等とあわせ、地域、保護者の代表者等で構成する委員会で見直し等を行った。 ・委員会開催数:東西各4回(計8回) (達成度)丁寧に意見交換等を実施できた。</p> | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | <p>【重点課題】 必要な保育量の推計と対応の検討 【就学前教育・保育を支える基盤の確保】</p> <p>【詳細説明】 これまでの取り組みにより供給可能な保育量を増加させることができた。他方で、コロナ禍などにより少子化が進んでおり、今後、需給の均衡を図ることが難しくなることが想定される。需給均衡を図る計画である第3期子ども・子育て支援事業計画が適切に策定できるよう準備する。</p> <p>【その他の課題】 ・市立幼稚園再編 ・特別支援サポート ・幼児期と児童期の円滑な接続</p> | <p>子ども・子育て支援事業計画策定業務費(3,515) 再編関連事業費(287,030) 特別支援サポート(55,341)</p> |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | 3,321,421 | | | 3,771,950 | 1 保育所等待機児童数 | 39人 (R3) | 6人 | | |
| | 施策関連 部署 | 子ども・未来部子育て応援室 | | 2 小学校生活への円滑な 接続度 | | | 44.4% (R3) | 31.3% | 増加 | | | |
| | | | 3 就学前施設における教育・保育により、子ども が大きく成長したと考える 保護者の割合 | 85.7% | | | 84.6% | 増加 | | | | |
| | | | | | | | 4 市内就学前教育・保育 施設の保育士・幼稚園 教諭の離職率 | 10.9% (R3) | 11.3% | 減少 | | |
| 5 | 取組名 | 地域ぐるみの子育て | R4予算 | | <p>①こうみん未来塾の拡充(3,202) 【科学技術に親しみを感じる子、グローバルに活躍する気概を持つ子、チャレンジ精神旺盛な子の育成】 【学校・家庭・地域の連携・協働の推進】 ②放課後児童クラブのデジタル化推進(5,994) 【地域における子どもの居場所づくり】 ③放課後子ども教室の実施(7,139) 【地域における子どもの居場所づくり】</p> | <p>①新たに探究コースを創設するとともに、学校に対してプログラム提供を行った。またオンライン受講環境を整備した。 ・のべ参加者数8,032人、探究コース(3コース全14回)、学校プログラム(9校区全34回) (達成度)多彩な学びにより主体的に考え行動する子どもの育成を図ることができた。 ②児童の入退室管理や保護者連絡などへのデジタル環境を整備した。また全クラブにビジネスチャットを導入して現場の業務改善を行った。 ・導入31クラブ、登録率92.6% (達成度)保護者の利便性を向上させるとともに、現場の負担軽減を図ることができた。 ③放課後や長期休業中の安心・安全な子どもの居場所づくりを行った。 ・開催15小学校区延べ1,355日開催 (達成度)学校や家庭以外の第3の子どもの居場所として、子ども同士や地域の大人の交流の機会を提供することができた。</p> | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | <p>【重点課題】 放課後児童クラブの多様なニーズへの対応・待機児童対策 【地域における子どもの居場所づくり】</p> <p>【詳細説明】 放課後児童クラブのニーズが地域偏在かつ多様化しているため、段階的に改善していく。その第一歩として、利用者アンケートで最も要望が多かった長期休業中の開所時間繰り上げを行う。あわせて、令和6年度のバス送迎の本格実施に向けてニーズの地域偏在対策・待機児童対策を進める。</p> <p>【その他の課題】 ・子どもの居場所づくり</p> | <p>放課後児童クラブ運営費(73,127)</p> |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | 107,170 | | | 109,769 | 1 学校支援ボランティアの 活動日数 | 2,608日 | 4,414日 | | |
| | 施策関連 部署 | 子ども・未来部子ども未来室 地域共創都市市民協働室 学校教育部 | | 2 トライやる・ウィークに 「来年度以降も協力したい」という事業所の割合 | | | 91.7% (R元) | 96.2% | 95.0% | | | |
| | | | 3 こうみん未来塾探究 コースの小中学生の修 了者数 | - | | | 45人 | 200人 | | | | |
| | | | | | | | 4 放課後子ども教室の開催 日数 | 1,042日 | 1,355日 | 2,040日 | | |
| 6 | 取組名 | 学校教育の充実 | R4予算 | | <p>①小中学校大規模改修事業等(1,156,340) 【学びを支える環境の整備～子どものより良い学びの環境づくり～】 ②児童生徒への相談・支援体制の充実 【一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実】 ③オンライン英語授業実施事業(1,460) 【社会的自立に向けた教育の推進】</p> | <p>①大規模改修及び個別改修による便器の洋式化、照明のLED化等その他修繕工事を実施した。 洋式化の純増数は以下のとおり。 小学校 23基(内 大規模改修 10基、個別改修 13基) 中学校 23基(内 大規模改修 19基、個別改修 4基) (達成度)各校の状況を鑑み照明のLED化、順次便器の洋式化を推進することができた。 ②スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)による相談・支援を行った。 SC相談件数R4:3,582件(R3:1,685件) SSW相談件数R4:1,110件(R3:1,114件) 不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合R4:65.3%(R3:73.7%) (達成度)特別な配慮を要する児童生徒の状態を把握し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや関係機関と連携し、個に応じた相談・指導・支援を充実させた。 ③タブレット端末を活用した外国人講師によるマンツーマンオンライン英語授業を実施した。 全8校の中3:年3回 (達成度)生徒アンケートで8割を超える肯定的な回答を得ることができた。「楽しく学べた」80.9%(R3:81%)、「英語学習に役立った」87.8%(R3:85%)、「これまで学習してきた英語を使うなどして、自分の言いたいことや気持ちなどを伝えようとした」91.7%(R4新規項目)など。</p> | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | <p>【重点課題】 不登校対策の充実 【一人ひとりが大切にされる教育・支援の充実】</p> <p>【詳細説明】 不登校及び別室登校児童生徒の増加に伴い、「小学校子どものこころの支援員配置」「こころのからだの自立に向けた相談会」「あすなろe-school」の各事業を実施し、長期にわたる不登校児童生徒への支援の充実を図る。</p> <p>【その他の課題】 ・小中一貫教育の推進【確かな学力の育成】 ・校舎等の洋式便器への改修推進</p> | <p>生徒指導対策事業費(25,077)</p> |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | 2,652,200 | | | 1,777,315 | 1 学習の中でコンピュータ 等のICT機器を使うのは 勉強の役に立つと答える 子どもの割合 | (小6)71.1% (中3)64.2% (R3) | (小6)70.2% (中3)58.3% | | |
| | 施策関連 部署 | 学校教育部 | | 2 「いじめを受けたり、嫌な ことがあった時」相談 しないと答える子ども の割合 | | | (小6)7% (中3)11% (R3) | (小6)10.3% (中3)9.1% | (小6)0% (中3)0% | | | |
| | | | 4 「自分には、よいところ があると思う」と答える子 どもの割合 | (小6)80.7% (中3)76.5% (R3) | | | (小6)78.3% (中3)75.1% | (小6)90.0% (中3)85.0% | | | | |
| | | | | | | | 5 「将来の夢や目標をもっ ている」と答える子ども の割合 | (小6)80.7% (中3)68.6% (R3) | (小6)79.2% (中3)66.7% | (小6)90.0% (中3)85.0% | | |
| | | | | | | | 6 校舎の洋式便器1基あ たりの児童生徒数 | (女子)14.4人 (男子)20.8人 (R3) | (女子)12.5人 (男子)19.6人 | (女子)10.0人 (男子)20.0人 | | |

【様式1】令和5年度行政評価調査

| 取組番号 | 基本情報 | | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) | R5予算対応内容(千円) | | |
|------|--------|--|----------------------|-------------------------|---|---|-----------------|-----------------------------|--------------------------|---------------------|--------------|---|--|
| | | | | 主な取組3項目(予算額:千円) | | ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | | 目標R8 | 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 |
| 7 | 取組名 | 若者が集うまち | R4予算 | R5予算 | <p>①産官学民の推進(500) 【産官学民連携の活性化】 ②地域活躍人材育成事業(2,081) 【若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成】 ③移住促進事業(7,797) 【住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開】</p> | <p>①企業との連携を図るため内閣府官民連携プラットフォームや民間マッチングサイトを活用するとともに、公民連携デスクを設置した。 ・連携協定4件、事業者からの提案54件 (達成度)4事業者と具体的な事業を展開することができた。 ②地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」、三田学生サミットの開催 ・スモカモス:23名参加、学生サミット:発表15組・交流会74名参加 (達成度)若者の活動支援と地域社会とのつながりを支援できた。 ③WEBターゲット広告やオンライン移住ツアー、住宅循環促進事業の実施 ・オンライン移住ツアー86人、移住関連セミナー60人 (達成度)移住定住相談窓口を通じた転入者26世帯63人(R3年度 8世帯25人)</p> | 1 | 未来を担う若者指数(15～19歳人口の10年後残存率) | 63.0% | 60.0% | 70.0% | <p>【重点課題】 移住・定住施策の展開 【若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成】 【住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開】</p> <p>【詳細説明】 若者・子育て世代の定住や市外からの移住を後押しできるような「移住・定住施策」を展開し、転出者を減少させ、転入者を増加させる。</p> <p>【その他の課題】 ・首都圏を中心とした関係人口の創出 ・若者や子育て世帯を中心とした活動拠点の整備</p> | <p>・新婚生活支援事業(18,000) ・住み替え支援補助事業(6,000) ・出張相談会・移住PR強化(470)</p> |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | 32,930 | | | 52,008 | 2 | 地域でチャレンジできた学生等若者のプロジェクト数 | 2件 | 14件 | | |
| | 施策関連部署 | 総合政策部未来戦略室 行政管理部行政管理室 まちの再生部都市政策室 | | | | | 3 | 移住相談窓口相談件数 | 24件 | 250件 | 500件 | | |
| | | | | | | 4 | 0～4歳児童数 | 3,892人 | 3,476人 | 3,500人 | | | |
| 8 | 取組名 | いつまでも学び、活躍できるまちづくり | R4予算 | R5予算 | <p>①生涯学習施設「知の拠点」図書館の運営管理(217,641) 【多様な学習機会の創出～学びの場の提供～】 ②シニアの学び(生涯学習カレッジの運営)(7,794) 【多世代に学びの機会を提供～学びの自己実現から社会貢献へ～】 ③生涯スポーツの推進(7,813) 【スポーツで貴方(あなた)が変わる!～生涯スポーツの推進～】</p> | <p>①図書館の今後の運営のあり方を検討し、市民の利便性を図るICタグシステムの導入などのスマート図書館について検討を進めた。また知の拠点施設として図書サービスの充実にも努めた。 ・来館者数 R4 508,721人 (達成度)スマート図書館サービスを目指し、図書館システム更新に併せてICタグシステム導入が決定した。コロナ禍で低調していた来館者数も順調に伸びており「知の拠点」として生涯学習が進んでいる。 ②withコロナの中での生涯学習カレッジの運営を進めた。 ・(カレッジ258人)講座・クラブ活動 カレッジ1～3年生(6回×9コース) 研究科(創業12回・地域12回)、クラブ活動23クラブ等 (達成度)コロナ禍による制約の中、講座、クラブ活動とも回数制限をして開講し、シニアの学び・仲間づくりを進めることができた。 ③第3次三田市スポーツ推進基本計画の策定を進めるとともにコロナ対策を講じながらスポーツ・運動の定着を進めた。 ・(ファミリー・スポーツ・カーニバル&チャレンジデー322人)(ノルディック・ウォーキング・フェスタ 春90人・秋161人)(三田国際マスターズマラソン ハーフ2,732人、ファンラン369人) (達成度)コロナ対策を講じながら各スポーツ事業を実施、スポーツ・運動活動の定着が進んだ。</p> | 1 | 当該年度に図書館に来館した延べ人数 | 625,777人(R元) | 508,721人 | 700,000人 | <p>【重点課題】 三田の自然や魅力を活かした生涯スポーツの推進 【スポーツで未来(あした)が変わる!～子どもに夢を!～】 【スポーツで貴方(あなた)が変わる!～生涯スポーツの推進～】 【学びやスポーツを通じた共生のまちづくり～多様性と調和・未来への継承～】</p> <p>【詳細説明】 『「する」「みる」「かんじる」「ささえる」スポーツで「さんだ」がかわる』を基本理念とする第3次三田市スポーツ推進基本計画を推進し、共生社会の実現と持続可能なスポーツ活動の推進を目指す。</p> <p>【その他の課題】 ・生涯学習施設「知の拠点」図書館の新しい運営</p> | <p>図書館管理運営費(444,831) 三田国際マスターズマラソン開催費補助金(5,000) ファミリー・スポーツ・カーニバル開催費(833) ノルディックウォーキング推進事業費(1,968)</p> |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | 470,077 | | | 932,346 | 2 | 市民が参加できるスポーツイベント件数 | 152件(R元) | 167件 | | |
| | 施策関連部署 | 地域共創部市民協働室 共生社会部健康共生室 まちの再生部地域整備室 | | | | | 3 | 週1回以上運動・スポーツをしている人の割合 | 43.9% | 46.4% | 50.0% | | |
| 9 | 取組名 | 地域医療の安心 | R4予算 | R5予算 | <p>①三田市休日応急診療センター(63,732) 【一次救急・小児救急医療体制の安定化】 ②市民病院の充実 【急性期医療の維持・充実】 ③救命・応急手当技術向上(90) 【ハイメディック救急体制の確立と救命意識の高揚、救急車の適正利用に向けた連携強化】</p> | <p>①三田市休日応急診療センターを安定的に運営し、コロナ禍の中発熱等受診・検査医療機関として診療を行った。 ・開設計画日数72日 →実績72日 ・すべての日に小児科医師を配置 (達成度)開設日数、医師の配置等計画どおり実施できた。 ②「断らない救急」と「新型コロナウイルス感染症対応」を重点的に取り組んだ。 ・救急搬送受入件数 計画3,600件→実績3,271件 ・コロナ陽性患者受入数 R2 201名、R3 284名、R4 226名 (達成度)救急搬送受入件数は、コロナ以前の水準に戻りつつある。 ③講習会を開催し、救命意識の普及啓発と救急車の適正利用のお願いを行った。 ・(開催回数、受講人数) 救急講習会・(R3)31回、1,251人、(R4)59回、2,633人 普通救命講習会・(R3)26回、233人、(R4)30回、267人 (達成度)開催回数、受講者数ともに増加し、救命率の向上に向け市民の技術の習得と意識の高揚が推進された。</p> | 1 | かかりつけ医をもつ人の割合 | 61.6% | 66.7% | 67.0% | <p>【重点課題】 救急医療を中心とする急性期医療の維持・充実 【急性期医療の維持・充実】</p> <p>【詳細説明】 ・三田・北神地域の急性期医療を確保するため、三田市民病院と済生会兵庫東病院の再編統合による新総合病院の整備に向けた取り組みを推進する。</p> <p>【その他の課題】 ・生命を守るために行動できる救命意識の啓発</p> | <p>新統合病院基本計画等策定事業費(26,300) 地域医療懇話会開催事業費(175)</p> |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | 1,792,387 | | | 1,844,234 | 2 | 市民病院の地域連携度:紹介率 | 73.0% | 75.6% | | |
| | 施策関連部署 | 共生社会部健康共生室 総合政策部地域医療推進室 消防本部 市民病院 | | | | | 3 | 市民病院の地域連携度:逆紹介率 | 107.3% | 101.2% | 100.0% | | |
| | | | | | | 4 | 市民病院の病床稼働率 | 71.2% | 68.4% | 85.0% | | | |
| | | | | | | 5 | 救急隊到着前の心肺蘇生法実施率 | 54.9% | 58.4% | 60.0% | | | |
| | | | | | | 6 | 救急車利用の軽症者率 | 45.9%(R元) | 41.0% | 40.0% | | | |

【様式1】令和5年度行政評価調書

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | R5予算対応 内容(千円) | | | | | |
|------|------------|---|---|------|--|---|---------------------------------|-----------------------------|---|------------------|---|--------------------------------------|---------------|---|---------------------|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | | | | | | | |
| 10 | 取組名 | 生活の安全安心・非常時 への備え | ①避難情報複数メディア一斉送信システム(14,810) 【災害からの逃げ遅れゼロ】 ②市指定避難所表示看板設置(4,526)【災害からの逃げ遅れゼロ】 ③消防ポンプ自動車・高規格救急車更新(108,040) 【消防体制の強化】 | | ①避難情報複数メディア一斉送信システムを導入した。 ・一斉送信先:防災行政無線、市ホームページ、防災防犯メール、LINE、コミュニティFM (達成度)計画どおり事業を完了し、災害発生時の避難行動の迅速化への取り組みが推進した。 ②市指定避難所に表示看板を設置した。 ・設置箇所:指定避難所37カ所 (達成度)計画どおり事業を完了し、指定避難所への迅速な避難と防災施設の機能充実を図れた。 ③老朽化した消防緊急車両を更新した。 ・消防ポンプ自動車1台と高規格救急車1台を更新。 (達成度)最新仕様の消防緊急車両を導入し、市民の安全安心を守る消防力が強化できた。 | 1 | 刑法犯罪発生件数(人口千人当たり) | 3.2件 | 3.0件 | 2.8件 | 【重点課題】 避難行動要支援者支援制度の推進 【災害からの逃げ遅れゼロ】 【詳細説明】 ・災害時に避難行動要支援者を近隣住民や地域組織にて支える仕組みづくりと個別避難計画の作成を推進していくことが求められている。 消費者啓発事業費(390) 消費生活相談事業費(970) 三田市消費者団体事業補助金(120) 消防救急車両整備事業費(218,640) | 避難行動要支援者支援制度事業費(1,512) | | | |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | | R5予算 | 443,220 | 590,324 | 2 | 交通事故による死傷者数 | | | 340人(R元) | 244人 | 255人 |
| | 施策関連 部署 | 経営管理部行政管理室 地域共創部市民協働室 まちの再生部地域整備室 消防本部 | | | | 3 | 消費生活に関する講座の受講者数(高齢者及び障害者・若年者) | 529人(R元) | 217人 | 700人 | | | | | |
| | | | | 4 | | 消費生活相談の解決率 | 85.5%(R元) | 90.1%(R3) | 90.0% | | | | | | |
| | | | | 5 | | 自主防災組織結成率(全世帯数に対する結成地区の世帯数合計) | 79.1% | 78.8% | 90.0% | | | | | | |
| | | | | 6 | | 避難行動要支援者個別支援計画作成地区数 | 11地区 | 28地区 | 75地区 | | | | | | |
| 11 | 取組名 | 子ども・子育ての安心 | ①妊娠・出産期の支援強化(2,542) 【三田版ネウボラの周知・充実(妊娠・出産から就学前までの切れ目のない支援)】 ②子どもの貧困対策の推進(3,000) 【子どもの貧困対策の推進】 ③ヤングケアラーの把握及び不登校支援の推進(152) 【特に支援が必要な子育て家庭へのアプローチ】 | | ①産後ヘルパー派遣制度及び通所型産後ケア事業を創設するとともに、プラワータウンに市内3カ所目となるネウボラ拠点(基本型)を開設した。 ・プラワータウンチャッピーサポートセンター(多世代交流館内) ・通所型産後ケア(9人、延べ17日利用) ・産後ヘルパー(3人、延べ24時間利用) (達成度)産後の心身の負担軽減や身近な相談場所の整備を進めることができた。 ②平成29年度に続き2度目の実施となる三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査を実施した。 ・保護者回答率52.6%、相対的貧困率9.9% (達成度)再度の調査により、コロナの影響やヤングケアラーなど市内の子育て家庭の現況及びニーズの把握を進めることができた。 ③上記の調査の中でヤングケアラーに関する設問を設けて現況の把握に努めた。またSUNだっこカフェ(不登校の保護者の交流会)を実施した。 ・調査結果 家族のお世話(平日3時間以上)が常態化していると思われる小学生が調査回答者1,199人のうち13人(1.1%)、中学生が調査回答者1,372人のうち10人(0.7%) ・SUNだっこカフェ参加保護者数延べ18人 (達成度)実態がみえにくいヤングケアラーの現況の把握及び増加している不登校の家族支援を進めることができた。 | 1 | 三田版ネウボラ拠点(子育て世代包括支援センター)の延べ相談者数 | 455人 | 420人 | 1,300人 | 【重点課題】 三田市子ども家庭センターの設置 【児童虐待防止等への取り組み】 【詳細説明】 子育て世代包括支援センター・家庭児童相談室・青少年育成センターの配置を集約し、妊娠から子育て期、青少年期までの相談支援を一体的に行う「子ども家庭センター」を開設する。在宅の子育て家庭の状況把握を進めるとともに、養育者のレスパイト(一時預かり)を開始して、児童虐待の未然防止を図る。またヤングケアラー等の支援のため家事ヘルパーを派遣して養育環境を整えていく。 (子育て世帯訪問支援事業238) 母子保健相談事業費(4,404) 妊婦健康診査費助成事業(62,346) | 子ども家庭センター設置関連事業費(支援対象児童等見守強化事業1,567) | | | |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | | R5予算 | 2,430,691 | 2,327,650 | 2 | 乳児家庭全戸訪問率 | | | 91.3% | 96.0% | 99.5% |
| | 施策関連 部署 | 子ども・未来部子ども未来室 | | | | 3 | 3歳児健康診査受診率 | 98.8% | 96.9% | 100.0% | | | | | |
| | | | | 4 | | 養育費を受け取っていない母子世帯の割合 | 67.0% | 66.2% | 52.0% | | | | | | |
| 12 | 取組名 | 高齢者の安心 | ①高齢者の相談支援体制の充実(162,559千円) 【三田安心ケアシステムの推進】 ②認知症予防教室事業(2,195千円) 【認知症の人と家族を支える地域の仕組みづくり】 ③介護人材育成の支援(200千円) 【介護サービスの充実と介護人材の確保】 | | | ①地域包括支援センター・高齢者支援センターを運営し、高齢者に関する保健・福祉に関する総合相談・支援を行った。 ・総合相談件数 R3実績6,492件→R4実績8,253件 (達成度)高齢者の総合相談窓口として介護予防、権利擁護、地域ネットワーク構築等に取組んだ。高齢者支援センター2カ所をR5年4月に向けて地域包括支援センター化し、相談支援体制を強化した。 ②認知症への理解促進、予防、早期発見・対応、健康づくりを一体的に推進するため、神戸大学が開発した介護予防プログラム「ログニケア」を開催した(R4年9月～R5年3月) (達成度)運動教室、体力測定、健康セミナーなど計24回のプログラムに27名が参加。ほぼ全員に何らかの運動機能向上が見られた。 ③市内の複数法人が共同で実施する就職説明会や職場見学会等の人材確保や介護職場のイメージアップを図る費用の一部助成を行った。 ・R4実績 1件 (達成度)介護人材確保のための「介護・福祉フェスタ」が複数法人の連携により実施できた。 | 1 | 高齢者人口に占める地域包括・高齢者支援センターの活用率 | 13.8% | 17.1% | | | 17.2% | 【重点課題】 認知症施策の推進 【認知症の人と家族を支える地域の仕組みづくり】 【詳細説明】 ・認知症の人や家族が安心して暮らし続けられるまちづくりのため、普及啓発、見守り体制づくり、相談支援体制強化、医療連携による早期発見・早期対応に取り組む。 認知症高齢者等支援事業費(3,534) 認知症高齢者家族支援事業(1,654) 認知症対策等総合推進事業(18,528) | 認知症高齢者等支援事業費(3,534) |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | | | R5予算 | 9,311,019 | 9,730,115 | 2 | | | 地域包括支援センター認知度 | | |
| | 施策関連 部署 | 共生社会部健康共生室 | | | | | 3 | 現在、「幸せ」と感じている高齢者の割合 | 62.8%(R元) | 62.2% | 66.8% | | | | |
| | | | | | | | 4 | 65歳以上高齢者の要介護認定率 | 17.2% | 17.1% | 17.2% | | | | |
| | | | | | | | 5 | 認知症サポーター数 | 10,905人(R3) | 12,294人 | 13,000人 | | | | |
| | | | | | | | 6 | 70歳以上のスマートフォン・タブレット利用率 | 60.0%(R元) | 69.0% | 80.0% | | | | |

【様式1】令和5年度行政評価調書

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | R5予算対応内容(千円) | |
|------|----------------------|--|---|---|---|-----------------------------|---------------|-------------|--|--|--|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | | | |
| 13 | 取組名 | 障害のある人の安心 | | ① 障害者の総合相談の充実(44,622) 【相互理解の推進と相談支援体制の充実】 ② 日常生活用具給付事務における世帯要件の撤廃(1,500) 【地域における包括的ケアの充実】 ③ 障害福祉サービス事業所等応援給付金(9,850) 【地域における包括的ケアの充実】 | ① 障害者の総合相談窓口である「きいてネット」の運営を行った。 ・総合相談件数:令和3年実績 11,748件→令和4年実績 11,624件 (達成度)総合相談窓口としての認知がすすみ、活用が促進された。 ② 日常生活用具における給付要件の世帯要件を撤廃した。 ・給付件数 令和4年度 2件(視覚障害者用体重計) (達成度)障害者の自立促進につなげた。 ③ 物価高、ガソリン高騰の影響緩和を目的に、障害サービスを提供する事業所に応援給付金を支給した。 ・支給事業者数 62件 (達成度)継続したサービス提供実施を支援し、障害者の生活を支えた。 | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | 【重点課題】 重層的相談支援体制の充実による社会参加の促進 【相互理解の推進と相談支援体制の充実】 【詳細説明】 障害がある、なしにかかわらず、誰もが対等の立場で社会参加できるよう相互理解と交流を進める。また、市民、事業者アンケート結果等を踏まえ、第6次三田市障害者福祉基本計画を策定するなかで、サービス提供体制の充実と施策を推進する。 【その他の課題】 ・デジタル技術を活用した情報アクセシビリティと意思疎通の充実 | 障害者基本計画・障害福祉計画策定業務(2,161) タブレットを用いた窓口申請支援(250) 総合福祉保健センターでの遠隔手話通訳(170) |
| | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | | | 1 三田市障害者総合相談窓口「きいてネット」の相談件数 | 11,623件 | 11,624件 | 13,000件 | | |
| | 施策関連 部署 | 共生社会部福祉共生室 共生社会部健康共生室 経営管理部行政管理室 | | | | 2 (障害者)グループホームの箇所数 | 10箇所 | 11箇所 | 12箇所 | | |
| | | | | 3 障害福祉サービス事業所から一般就労した人数 | 10人(R元) | 11人 | 16人 | | | | |
| | | | | 4 市役所における障害者雇用率 | 2.7%(R3) | 2.7% | 2.8% | | | | |
| | | | | 5 障害のある人への対応や理解 | 38.4%(H28) | 38.4%(H28) | 70.0% | | | | |
| | | | | 6 意思疎通支援者の派遣回数 | 369件(R元) | 447件 | 400件 | | | | |
| 14 | 取組名 | 心つながる暮らしの安心 | | ① 福祉医療費助成の実施(745,759) 【誰もが安心して医療を受けられる制度の構築】 ② 孤独・孤立問題対策の周知啓発(210) 【つながりをつくり一人にさせない孤独・孤立対策の総合的な推進】 ③ 被保護者就労支援事業(2,872) 【生活に困窮している人を包み支えるセーフティネットの強化】 | ① 福祉医療費助成制度により、必要な医療を受けることができるよう、支援を行った。 ・福祉医療助成額 R3実績630,070千円 →R4実績641,355千円 (達成度)社会的、経済的に弱い立場にある人等の医療費を助成することで、保健の向上と福祉の増進を図った。 ② 孤独・孤立問題を考える講演会の実施、市HPでの専用ポータルサイトの開設などで周知啓発を行った。 ・講演会参加者数 R3実績なし→R4実績114人 (達成度)孤独・孤立問題に社会全体で対応する機運の醸成と、情報発信の体制を整備し、周知啓発を図った。 ③ 就労支援員を配置し、就労可能な生活保護受給者への就労支援を実施した。 ・新規就労者数 R3実績12人 → R4実績12人 (達成度)関係機関と連携しながら、きめ細やかな支援を行い、対象者を就労に結びつけた。 | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | 【重点課題】 相談者の属性や分野を問わない包括的な相談・支援体制整備 【ライフステージに応じて多様化・複合化する課題への対応】 【詳細説明】 誰もが自分らしく安心して暮らせる共生のまちづくりを進めるため、身近でゆるやかにつながる「地域づくり」への支援、困りごとを受けとめ支える「相談」支援、一人一人の居場所や役割など多様な社会「参加」支援を一体的に実施する重層的支援体制整備が求められている。 【その他の課題】 ・生活困窮者等セーフティネットの強化 | 重層的支援体制整備事業への移行準備事業(24,000) |
| | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | | | 1 自殺死亡率 | 16.4 | 14.7(R3) | 6.7以下 | | |
| | 施策関連 部署 | 共生社会部福祉共生室 共生社会部健康共生室 地域共創部市民協働室 | | | | 2 三田市権利擁護・成年後見支援センター新規相談件数 | 215件 | 248件 | 300件 | | |
| | | | | 3 生活保護受給者に対する就労支援による新規就労者数 | 12人 | 12人 | 15人 | | | | |
| 15 | 取組名 | 商工業の振興 | | ① 実践創業塾や創業セミナーの開催及び起業間もない経営者への相談・指導などの支援を行った。 ・実践創業塾開催数(参加者数) R3実績2回(36人)→R4実績2回(39人) (達成度)起業家の人材育成や経営の継続・安定化につながっている。 ② 商機拡大などに向け、事業者が自らの製品やサービスを産業フェア等に出展するチャレンジに対し、出展経費の一部を助成した。 ・助成件数(R4新規) R4実績6件 (達成度)事業者の販売促進や販路拡大の足掛かりがとなっている。 ③ 課題を抱える事業所と起業家精神を有する学生が一緒に課題解決に向けたビジネスプランを考える取組みを実施した。 ・事業所数、学生数(R4新規) R4実績 2事業所、4人 (達成度)互いに良い刺激を受け互恵性を生み出すことができた。 | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | 【重点課題】 さんだスタートアップシティの推進 【地域イノベーションの創出】 【詳細説明】 ・新たなビジネスの立ち上げ等にチャレンジする人を増やし、まちの成長エンジンとするため、起業を志す人材の裾野拡大や効果的な情報発信等に取り組んでいく必要がある。 【その他の課題】 ・中小企業の経営継続 ・雇用促進 | 創業支援事業費(9,666) 三田市産業創造戦略人材育成事業費(1,689) | |
| | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | | 1 起業相談等支援を行った者のうち創業した件数(累計) | 72件 | 90件(R3) | 160件 | | | |
| | 施策関連 部署 | 地域共創部産業戦略室 | | | 2 市内民営事業所数 | 2,730事務所(H28) | 2,730事務所(H28) | 3,000事務所 | | | |
| | | | | 3 製造品出荷額等(4人以上の事業所) | 5,993億円(R元) | 5,351億円(R2) | 7,200億円 | | | | |
| | | | | 4 年間商品販売額(卸売・小売) | 1,569億円(H27) | 1,472億円(R2) | 2,000億円 | | | | |
| | | | | 5 市内民営事業所従業員数 | 39,678人(H28) | 39,678人(H28) | 42,000人 | | | | |
| 16 | 取組名 | 農業の振興 | | ① 新しい就農者の育成(2,500) 【みんなで支える三田の農業】 ② 小規模農家の営農継続支援(6,500) 【みんなで支える三田の農業】 ③ スマート農業の普及促進(1,800) 【スマート農業の導入で作業の自動化・省力化を実現】 | ① 就農希望者に向けた相談会の開催及び農業機械等の導入経費を助成した。 ・認定新規就農者数(累計) R3:28経営体 →R4:31経営体 (達成度)スムーズな就農につなげるとともに就農初期の負担軽減を図ることができた。 ② 小規模農家の営農を支援するため農業機械の導入経費を支援した。 ・導入件数(R4新規) R4実績 13件 (達成度)小規模農家への支援により営農継続につなげた。 ③ 農業経営の効率化や農作業の負担軽減を図るため、スマート農業機械の導入経費を支援した。 ・導入件数(R4新規) R4実績 5件 (達成度)持続可能な農業経営に向けスマート農業の普及を促進した。 | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | 【重点課題】 多様な担い手の確保 【みんなで支える三田の農業】 【詳細説明】 人口減少や高齢化による担い手不足など、厳しさを増す農業環境に対して、大規模農家をはじめ小規模農家や半農半X等も含め、多様な農業者が総掛かりで地域の農業を支えていくことが求められている。 【その他の課題】 ・地域計画の策定 ・鳥獣被害対策 | 新規就農者育成総合対策事業(35,630) 農地利用効率化等支援事業(9,000) 小規模農家営農継続支援事業(6,500) 農業経営スマート化促進事業(6,800) |
| | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | | | 1 認定農業者数及び認定新規就農者数 | 88経営体 | 77経営体 | 100経営体 | | |
| | 施策関連 部署 | 地域共創部産業戦略室 学校教育部 行政委員会事務局 | | | | 2 鳥獣害の農作物被害額 | 8,720千円 | 9,808千円(R3) | 6,500千円 | | |
| | | | | 3 三田牛の出荷頭数 | 209頭 | 101頭 | 250頭 | | | | |
| | | | | 4 獣害対策柵の設置総延長 | 201km | 208km | 260km | | | | |
| | | | | 5 学校給食での地場産野菜使用率 | 31.3% | 28.6% | 35.0% | | | | |

【様式1】令和5年度行政評価調査

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | R5予算対応内容(千円) | | |
|----------------------|--|--|--|-----------------|---|-------------------|-------------------|-----------------|---|--|--|-------------------------------|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | | | | |
| 17 | 取組名 | 観光・交流・文化の振興 | ①さんだのまちを遊ぶ博覧会の推進(2,039) 【魅力あるコンテンツづくり～おもちゃ箱の中はワクワク・ドキドキがいっぱい～】 | | ①着地型観光の推進に向け、実施プログラムの拡充を図り、新たな観光資源等を市内外へ広く情報発信を行った。 ・実施プログラム数 R3実績11プログラム→R4実績33プログラム (達成度)事業者研修を通じて、プログラムの魅力増進と事業者間の連携につながった。 ②返礼品の新規開拓やポータルサイトのPR広告の強化を図った。 ・返礼品数 R3実績200品→R4実績250品 (達成度)寄附件数及び寄附額の増加につながった。 ③開館16年を迎えた総合文化センターの持続可能な運営方策を検討しPFI手法等導入可能性調査を実施。また市民への文化振興事業の展開を進めた。 ・施設利用件数4,949件 イベント件数197件 (達成度)PFI手法等導入可能性調査においては、改修PFI手法等の導入の方向付けを行い、次年度以降の予算化に向け調整が進んだ。また文化振興事業においては、コロナ対策を講じながら事業展開を進め、順調に事業件数を伸ばした。 | 1 | 観光入込客数 | 3,569千人 (R元) | 2,988千人 (R3) | 3,900千人 | 【重点課題】 アウトドア交流都市に向けた核プロジェクトの推進 【地域資源の保存継承～みんなで守り育む三田の誇り～】 【詳細説明】 ・野外活動センター再生プロジェクトについては、新たな運営事業者による魅力あふれる施設へ再生するため、進入路の改修をはじめとした取り組みを進める。 ・千丈寺湖畔再生プロジェクトについては、千丈寺湖畔周辺における拠点整備や事業可能性を検討するためのサウンディング調査を実施するとともに、プレイベントの実施により認知度向上を図る。 【その他の課題】 ・寄附制度を活用した財源確保を推進するため、ふるさと納税については、R8年度年間寄附額5億円(12,000件相当)を新たな目標に設定して取り組みを進める。 | 千丈寺湖畔再生プロジェクト推進事業 (10,670) |
| | | | 2 | 観光消費額 | | 24,594百万円 (R元) | 19,534百万円 (R3) | 26,100百万円 | | | | |
| | 3 | 文化財施設の利用者数 | 4,717人 (R元) | 3,201人 | | 5,000人 | | | | | | |
| 4 | 三田市公式インスタグラムフォロワー数 | 2,248件 | 3,128件 | 5,500件 | | | | | | | | |
| 5 | ふるさと納税寄附件数 | 5,265件 | 8,409件 | 8,000件 | | | | | | | | |
| 6 | 総合文化センターでのイベント件数 | 203件 (R元) | 197件 | 250件 | | | | | | | | |
| 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | ②ふるさと納税制度を活用した魅力発信(82,627) 【情報発信と魅力向上～欲しい人に、わかりやすく届けます～】 | | ④総合文化センターの持続可能な運営管理と文化活動支援の実施(242,780) 【総合文化センターの適切な運営と文化活動の支援～文化芸術で人生が変わる!～】 | | | | | | | |
| 598,335 | 731,331 | | | | | | | | | | | |
| 施策関連 部署 | 地域共創部産業戦略室 地域共創部市民協働室 総合政策部未来戦略室 まちの再生部都市政策室 学校教育部 | | | | | | | | | | | |
| 18 | 取組名 | まちの再生 | ①三田駅前Cブロック地区市街地再開発事業の推進(1,401,400) 【三田駅前周辺エリアに人が集い賑わいあふれる空間の創出】 | | ①Cブロック地区市街地再開発組合で権利変換計画認可に向けた手続きに着手した。 (達成度) 事業進捗に応じて、補助金交付等の支援を実施。 ②対中町地区、相野地区、広野地区においてまちづくり計画に対する支援を行った。 (達成度) 対中町地区において、市による都市基盤の整備を促進するため地区計画の申出を行った。(R4申出件数:1件) ③フラワータウン再生ビジョンに基づく、再生への先導的取り組みとなるキックオフプロジェクトを実施した。 ・まちびらき40周年記念イベントとなるフラワータウンフェスタ2022を開催 ・キッチンカー誘致による道路空間の利活用を図る社会実験を実施した。 (達成度) 再生に向けた機運の醸成が図られた。 | 指標名 基準R2 R4 目標R8 | | | | 【重点課題】 三田駅前Cブロック地区市街地再開発事業の推進 【三田駅前周辺エリアに人が集い賑わいあふれる空間の創出】 【詳細説明】 各種調査や補償、既存建築物等の解体工事、ペDESTリアンデッキの拡張工事、再開発ビルの建築工事など再開発事業を推進するために必要となる支援を事業主体であるCブロック地区市街地再開発組合に対し行っていく。 【その他の課題】 ・フラワータウンリノベーションプロジェクトを推進し、持続可能なまちの再生モデルを構築 | 三田駅前 Cブロック地区 (1,654,438) | |
| | | | 1 | 市街地再開発事業の区域面積 | | 3.1ha | 3.1ha | 5.0ha | | | | |
| | 2 | まちづくり組織、事業者等による都市計画提案等の件数 | 4件 | 6件 | | 9件 | | | | | | |
| 3 | 町家等修景助成件数 | 4件 | 4件 | 7件 | | | | | | | | |
| 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | ②対中町地区まちづくり検討支援業務(4,800) 【JR駅周辺の魅力とクオリティーを高める土地利用の推進】 | | | | | | | | | |
| 1,633,606 | 1,896,910 | ③ニュータウン再生の推進(5,102) 【多世代がつながり未来へ歩む持続可能なニュータウンの再生】 | | | | | | | | | | |
| 施策関連 部署 | まちの再生部都市政策室 まちの再生部地域整備室 | | | | | | | | | | | |
| 19 | 取組名 | 良好な住まい | ①良好な住環境の確保(5,208) 【自然と共存した良好で快適な住環境の確保】 | | ①良好で快適な住環境の確保に取り組んだ。 ・地区計画、景観計画を活用した景観形成の推進 ・空家等対策計画(第2期)の策定 (達成度)地区計画、景観計画により景観形成を図った。計画どおり空家等対策計画(第2期)を策定した。 ②住まいに関する情報提供や空き家バンク等による空き家利活用の推進を図った。 ・空き家バンク 累計登録物件数 51件、累計成約件数30件 (達成度) R4空き家の成約件数は3件であったが、登録件数は前年並みの5件であり、空き家利活用が図られた。 ③旧耐震住宅の所有者に対して、個別啓発や相談会を実施し、耐震化の促進を図った。 ・簡易診断件数(R3:46件)⇒(R4:62件) ・住宅耐震改修計画策定費補助(R3:6件)⇒(R4:7件) ・住宅耐震改修工事費補助(R3:3件)⇒(R4:5件) (達成度)ポスティングエリアの拡張、改修実績業者リストの配布により、診断、改修ともに件数が増加した。 | 指標名 基準R2 R4 目標R8 | | | | 【重点課題】 住宅ストックの利活用(空き家バンク制度等)の推進 【住まいの幅広いニーズに応える情報発信】 【詳細説明】 空き家バンク制度や空き家リフォーム補助制度の活用等により、空き家の有効活用及び流通促進を図り、良質な既存住宅ストックの利活用を推進するとともに、良好な住環境の確保を図る。 【その他の課題】 ・住宅の耐震化において、補強工事等が必要と診断された建築物の経過の把握やフォローアップ | 住宅ストック利活用推進事業費 (12,892) マイホーム借上げ制度推進事業費 (1,917) | |
| | | | 1 | すまいの相談窓口の年間相談件数 | | 157件 | 135件 | 160件 | | | | |
| | 2 | 空き家バンクを利用した成約件数 | 22件 | 30件 | | 52件 | | | | | | |
| 3 | 住宅の耐震化率 | 94.6% | 95.2% | 97.0% | | | | | | | | |
| 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | ②住み替え、空き家利活用の推進(11,987) 【住まいの幅広いニーズに応える情報発信】 | | | | | | | | | |
| 36,297 | 39,066 | ③住宅の耐震診断・改修の促進(11,046) 【地震に備えた安全・安心な住まいづくり】 | | | | | | | | | | |
| 施策関連 部署 | まちの再生部都市政策室 まちの再生部ゼロカーボンシティ推進室 | | | | | | | | | | | |

【様式1】令和5年度行政評価調書

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) | R5予算対応内容(千円) | | | |
|------|--------------|---|---|--|--|--|------|-----------------------------|---------------------|---------------|-----------|---|---|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) | | ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | | 目標R8 | 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | |
| 20 | 取組名 | 交通ネットワーク | ①次世代モビリティの推進(5,000) 【次世代につながる新たな移動サービスの実現】 ②橋梁長寿命化、道路インフラ関連事業(316,350) 【道路施設の機能確保】 | | ① フラワータウンにおいて、新モビリティの試乗会開催のほか、新たなモビリティサービス(グリーンスローモビリティ)を活用した実証実験を実施した。 ・新モビリティサービス試乗会 計画1回 → 実施1回 ・コンソーシアムによるデマンド交通導入実証にむけた計画策定 → コンソーシアムによるデマンド交通導入等実証による調査 (達成度)国支援事業を活用することで、実証運行による調査分析まで実施することができた。 ② 三田市橋梁長寿命化計画・舗装修繕計画に基づき計画的に修繕等を実施した。 ・橋梁修繕 計画3橋 → 実績3橋 ・舗装修繕 計画480m → 実績630m (達成度)計画に則して実施し、道路ネットワーク機能を確保することができた。 | | 1 | 公共交通利用者数(路線バス・日あたり平均) | 11,048人/日 | 11,861人/日(R3) | 16,294人/日 | 【重点課題】 地域内交通の導入促進 【日常の暮らしに寄り添うコミュニティ交通の充実】 【詳細説明】 交通不便地域等において、地域の実情に応じた持続可能な新たな地域内交通の導入を推進するため、自家用有償旅客運送などの手法活用と地域住民が主体となった推進体制への支援等による加速化が必要。 【その他の課題】 ・次世代モビリティサービスの推進 ・老朽化する道路・橋梁の計画的な対応 | 新モビリティ実証実験推進補助事業(4,000) 地域外出支援おでかけサポート事業(6,730) 修繕・耐震化設計委託(73,100) 修繕耐震化工事(96,800) 里道跨道橋点検委託(9,300) 道路舗装修繕工事(54,215) |
| | 対象経費人件費除く:千円 | R4予算 | | | | | R5予算 | 1,347,481 | 989,931 | | | | |
| | 施策関連部署 | まちの再生部都市政策室 まちの再生部地域整備室 | | | | | | | | | | | |
| 21 | 取組名 | 水の保全 | ①防災・減災対策(165,400) 【災害に負けない施設づくり】 ②水道ビジョン更新(16,000) 【健全経営の推進】 ③浸水対策(17,600) 【市街地浸水対策の推進】 | | ① 上下水道施設の防災・減災対策を実施した。(水道) ・継手強靱化(19箇所) (下水道) ・管路施設耐震化設計(1箇所)、マンホールトイレ整備(3箇所) (達成度)上下水道施設の防災・減災対策を推進した。 ② 水道ビジョン更新作業に着手した。 ・経営の健全化に向け、令和4年度より長期的視点を踏まえた水道ビジョンの更新作業を実施。 (達成度)当初計画どおり水道ビジョンの更新に向けた検討を進めた。 ③ 浸水対策に着手した。 ・雨水管路基本設計(1箇所) (達成度)浸水区域解消のため、雨水管路の基本設計を実施した。 | | 1 | 水道水の無効水量率 | 7.4% | 7.0%(R3年度) | 7.4%以下 | 【重点課題】 上下水道事業の持続可能な安定経営 【健全経営の推進】 【詳細説明】 市民生活や経済活動を支えているライフライン事業の持続可能な安定経営のために、長期的視点を踏まえたビジョン及び経営戦略に基づき事業運営を図っていく。 ・水道ビジョン更新 【その他の課題】 ・上下水道施設の適正な機能維持 | 水道ビジョン更新業務委託費(11,000) |
| | 対象経費人件費除く:千円 | R4予算 | | | | | R5予算 | 655,673 | 669,043 | | | | |
| | 施策関連部署 | 上下水道部 | | | | | | | | | | | |
| 22 | 取組名 | 里山・自然の保全 | ① 生物多様性さんだ戦略策定事業(5,660) 【自然の豊かさを象徴する生物多様性の保全】 ② 資源循環型里山林整備事業(1,500) 【里山が息づくまちづくり】 ③ 街路樹適正化関連事業(300) 【山並みと調和し一体的な景観を形成する街路樹の適正管理】 | | ① 市内の生物多様性の状況について調査し、多様な主体が生物多様性を保全する指針となる地域戦略の策定に向けて進めた。 (達成度)市内の生物多様性の状況を反映する生物多様性地域戦略策定を推進できた。 ② 里山林の保全および里山資源を循環利用する取り組みを支援し、里山の保全活用を推進した。 計画4団体2,000㎡→実績4団体2,350㎡ (達成度)保全活用する団体に新規事業者が参画し森林整備が実施できた。 ③ 街路樹の適正な育成・管理に向けた基本方針を策定した。 (達成度)学識経験者、市民等からなる検討会を設置し、街路樹に関する基本方針を定めることができた。 | | 1 | 育成プログラム体験者を受入可能な保全ボランティア団体数 | - | 0団体 | 10団体 | 【重点課題】 里山資源の循環利用の促進 【里山が息づくまちづくり】 【詳細説明】 生活様式の変化に伴い活用されなくなった里山の資源を今の時代にあった利活用を図ることで里山保全を促進させるとともにCO2の吸収源など多面的機能の向上を促進させる。 【その他の課題】 ・街路樹の計画的な更新 | 木の駅プロジェクト推進事業(5,230) 街路樹適正化工事(30,000) |
| | 対象経費人件費除く:千円 | R4予算 | | | | | R5予算 | 826,612 | 743,781 | | | | |
| | 施策関連部署 | まちの再生部ゼロカーボンシティ推進室 まちの再生部地域整備室 地域共創部市民協働室 | | | | | | | | | | | |

【様式1】令和5年度行政評価調査

| 取組番号 | 基本情報 | | 予算の重点項目に対する市の取組結果(R4年度) | | 成果指標の推移 | | | | 成果を踏まえた重点課題等(R5年度～) 現在もっとも重要な1項目+その他の課題を記載 | R5予算対応内容(千円) | | | | | |
|------------|---|-------------|---|------|---|-----------------------|-------------------|---------|---|---------------------------|-------|--------------------|-------|--|---|
| | | | 主な取組3項目(予算額:千円) ⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価 | | 指標名 | 基準R2 | R4 | 目標R8 | | | | | | | |
| 23 | 取組名 | 持続可能な環境づくり | ①ゼロカーボンシティ推進計画の策定(1,523) 【ゼロカーボンシティへの挑戦】 ②さんだゼロカーボンシティフォーラムの開催(1,300) 【子どもから大人まで多様な機会を活用した環境教育】 ③新ごみ処理施設整備事業費(29,079) 【(仮称)さんだ環境エネルギーセンターの整備】 | | ①ゼロカーボンシティの実現に向けて市民、事業者、行政が一丸となり主体的に脱炭素行動に取り組めるよう「さんだゼロカーボンシティ推進計画」を策定した。 ・市域の温室効果ガス排出量 H25実績888,220t-CO2→H30実績759,483t-CO2 (達成度)さんだゼロカーボンシティ推進計画が策定できた。 ②脱炭素意識の高揚を目的に、昨年度のキックオフイベントに続き「さんだゼロカーボンシティフォーラム」を開催した。 ・イベント参加者数 R3実績228人→R4実績589人 (達成度)幅広い年齢層に向けたイベント内容となったことに加え、運営に多くの団体が関わったことにより参加者数が増加した。 ③新ごみ処理施設の整備に向けて土壌汚染調査及び事業者選定委員会(3回開催)において入札関係図書に関する審議を行った。 (達成度)R10年度の供用開始に向けて計画通り入札関係図書の作成ができた。 | | | | 1 | 市域の温室効果ガス排出量 | - | 759,483t-co2 (H30) | 減少 | 【重点課題】 令和4年度に策定した「さんだゼロカーボンシティ推進計画」に基づく具体的施策の推進 【ゼロカーボンシティへの挑戦】 【詳細説明】 2050年ゼロカーボンシティの実現に向けては市民、事業者が地球温暖化を“自分ごと”と捉え主体的に脱炭素行動に取り組むことが必要である。 一人一人の行動変容を促すよう、行政が率先行動に取り組み、多様な施策の展開が必要である。 【その他の課題】 ・ごみ減量、再資源化の推進 ・新ごみ処理施設の整備 | ゼロカーボンシティ推進事業費(37,449) 環境教育推進事業費(361) |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | 2 | クールチョイス運動賛同者数 | - | 87人 | 増加 | | | | | |
| | 1,657,669 | 1,827,783 | | 3 | 太陽光発電率 | - | 11.2% (R2) | 増加 | | | | | | | |
| 施策関連 部署 | まちの再生部ゼロカーボンシティ推進室 まちの再生部都市政策室 | | | | 4 | ごみの再生利用率 | 15.7% | 18.8% | 18.0% | | | | | | |
| | | | | | 5 | ごみの焼却量 | 29,639t | 27,475t | 27,464t | | | | | | |
| 24 | 取組名 | 協働・共創のまちづくり | ①協働事業提案制度補助金(1,200) 【地域人財の育成と、意欲ある共創の取組みをチーム三田で支援する仕組みの構築】 ②市民活動推進プラザ充実(5,226) 【協働を通じて地域や三田のまちを創造する機運の醸成】 ③広報誌の発行(23,287) 【情報の積極的な発掘・提供と共有化の推進】 | | ①地域社会の課題解決につながる公益的事業を行う団体等への支援を行った。 ・提案件数 R4実績10件 (達成度)公益的事業を始める団体等の一定の質を担保しながらも、新たに踏み出す団体が増加した。 ②地域における市民活動団体の支援やテーマ型団体と地域団体の連携を図るため、まちづくり協議会へのアウトリーチを軸とした活動を展開した。 ・アウトリーチ回数 R4実績10回 (達成度)市民活動推進プラザを核に多様な力の協働をコーディネートし、新しい価値観や解決策を創造する機会を提供した。 ③広報誌において、まちの魅力や課題、課題解決への取り組み等について、毎月特集記事として取材し、掲載した。 ・特集等を読んでいる割合 34.5%(R元)→63.6%(R4) (達成度)読者アンケートでは、「まちの課題や取り組みを知ることができた」といった感想が毎号あり、特集記事による情報発信を通じて、市民と一定の共有を図ることができた。 | | | | 1 | 三田のまちづくりへの関心度 | 77.0% | 77.0% | 80.0% | 【重点課題】 市民活動推進プラザの充実 【デジタル技術の活用推進とコーディネート機能の充実】 【詳細説明】 協働、共創のまちづくり実現のため以下により市民活動推進プラザの充実、強化を図る。 ・市民活動団体や地域活動団体の相談に乗り、多様な人々の力を引き出し、発揮させるため機能の充実 ・地域づくりやまちづくりの中間支援拠点として、市民活動推進プラザの育成・強化 ・市民活動推進プラザの機能を活かしアウトリーチやワークショップの手法等を活用しながらテーマ型団体と地縁団体の連携促進 【その他の課題】 ・協働事業提案制度の充実 ・地域人材も含めた地域団体の育成支援 | 市民活動推進プラザ運営事業費(5,226) |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | 2 | 新たな協働事業提案制度への提案数 | - | 10件 | 5件 | | | | | |
| | 529,744 | 541,368 | | 3 | まちの課題や市民活動に関する広報誌の特集等が読まれている割合 | 34.5% (R元) | 63.6% | 70.0% | | | | | | | |
| 施策関連 部署 | 地域共創部市民協働室 総合政策部政策調整室 | | | | 4 | SNSを活用した情報発信ツールの登録者件数 | - | 8,132件 | 47,000件 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 取組名 | 行政経営 | ①働き方改革による人づくり・組織づくり 【ダイバーシティとインクルージョンにより持続的に成長する人づくり・組織づくり】 ②市有財産の利活用に向けた取組み(256) 【新たな価値を創造する公共施設マネジメントの推進】 ③オンライン申請の手続き拡充(2,223) 【行政サービスのデジタル化】 | | ①市の職員や組織における働き方改革を3か年の重点的取り組みとし、初年度R4から100項目の推進プランを設定。現在は24項目について実施又は準備を進めている。 (達成度)働き方の多様性を目的とした働きやすい職場づくりと人財の育成を目的とした働きがいのある職場づくりが進捗。 ②公マネ基本方針に基づく施設の民間利活用を推進。 ・R4:売却契約(淡路風車の丘・旧青少年育成センター)、賃貸借覚書(新陶芸館)、募集選定(野外活動センター) (達成度)優先交渉権者が決定し、各優先交渉権者との協議が進捗。民間による改修等のうち5年度以降に順次リニューアルオープン予定となった。 ③マイナンバーカードによる本人認証機能強化、クレジットカードによるオンライン決済機能を活用して、住民票や印鑑証明等の諸証明の交付手続きのオンライン化を進めた。 ・オンライン申請可能な手続き数171手続き(令和4年度時点全体比22.8%) (達成度)市役所に行かなくても申請が可能となり、市民サービスの利便性向上に繋がった。 | | | | 1 | 「チャレンジする意欲がある」と評価される職員の割合 | 36.3% | 39.1% | 50.0% | 【重点課題】 大規模投資事業を推進するための財源確保と財政負担平準化方策の検討 【持続可能な財政構造の転換】 【詳細説明】 ・新ごみ処理施設、新設中学校、新統合病院など大規模事業が始動する中で、未来への投資のための財源確保と中長期の債務償還負担把握による財政硬直化の抑制を両立し、健全財政のもと行政サービスの水準を適正に維持する必要がある。 LoGo電子通知(792) ※組織運営の最適化等 一般事務費(人材派遣によるアウトソーシング)(7,440) | ※スマート市役所等 LoGo利用料(2,244) オンライン決済手数料(32) LoGo電子通知(792) ※組織運営の最適化等 一般事務費(人材派遣によるアウトソーシング)(7,440) |
| | | | 対象経費 人件費除く :千円 | R4予算 | R5予算 | 2 | 年度間財源調整のための基金の保有額 | 45.4億円 | 49.6億円 (R3) | 46.0億円以上 | | | | | |
| | 5,296,154 | 4,812,183 | | 3 | 実質公債費比率(3年平均値) | 6.0% | 6.1% (R3) | 10.0%以下 | | | | | | | |
| 施策関連 部署 | 経営管理部財務室 総合政策部政策調整室 総合政策部未来戦略室 経営管理部行政管理室 経営管理部歳入推進室 地域共創部市民協働室 まちの再生部地域整備室 まちの再生部ゼロカーボンシティ推進室 行政委員会事務局 | | | | 4 | 公民連携により実現した事業等の件数(累計) | - | 8件 | 10件以上 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |